

経営的視野を持った人材の育成を

5月の連休明け、3月決算企業の「決算発表」が一齐に行われています。当然、株主や投資家にとっては関心の的です。しかし、社員の皆さんは、自社の決算内容にどれだけ関心を持っているのでしょうか。

もちろん、全社員が財務諸表の詳細まで理解する必要はないかもしれませんが。しかし、経営は数字であり、その財務データは、社員全員の仕事ぶりに対する通信簿でもあります。

財務データを知らないということは、ボウリングに例えれば、ピン（業績）が見えない状態で、管理者の「右だ、もっと左だ」という指示だけでボールを投げているようなものです。「何本倒れました?」「心配するな、結構倒れている」「・・・!?!」。これでは、社員のやる気も出ないでしょう。つまり、四半期等の正式な決算だけでなく、日常的な財務データのフィードバックで、社員の意識を業績に集中させることが重要です。

ピーター・ドラッカーは「情報は、言われなくとも自分のすべきことを判断できる力を人々に与える」と、言っています。

しかし、財務データを理解するためには、最低限の会計知識が必要です。かと言って、データや知識さえあれば、業績が上がるわけでもありません。財務データを理解する目的は“**会社が利益をあげることに全社員を集中させる**”ことにあります。具体的に実行すべきことは、方針や戦略であり、そのベースである“本気で取り組む姿勢”を作ることです。

弊社では、全社員を対象に貴社の今期方針との連動を図る「経営的視野を持つための財務知識研修」を実施しています。その具体的な研修効果は以下の通りです。

1. “経営は数字”であることが理解でき、経営的視野が持てる
2. 会社の現状に対する誤解、曲解がなくなる
知らないで、社員は憶測で行動します。しかも、悪い憶測になりやすい
3. 部分的な問題よりも、会社全体の共通目標を重視するようになる
4. 全員の意識を経営目標に集中させ、社員の一体感を醸成できる
5. 企業の収益体質を強化し、学習する組織に変えることができる
説得力のある数字があると「なぜ今、この方針・戦略なのか」を理解した上で、利益をあげるために自ら考えて行動できる
6. 管理者のマネジメントを支援できる
「部門の経営者」である管理者の役割を部下が理解でき、フォローアップが発揮しやすくなる

この研修は、業種や企業の個別事情（方針内容等）によって、取り上げる財務データや進め方が変わってきます。弊社では、貴社の問題をコンサルティングした上でオリジナルのカリキュラムをご提案いたします。興味・関心がありましたら、下記からお問い合わせ下さい。



> お問い合わせはこちら